

令和4年度入学試験問題（前期日程）

# 小 論 文

（初等教育教員養成課程）

## 注意事項

1. 解答は、すべて別紙解答紙の指定の箇所に横書きで記入すること
2. 解答紙には、かならず受験番号を記入すること

〔問〕 つぎの文章を読み、あとの問いに答えなさい。

なぜ大人たちは、若者が本を読まなくなったことを嘆くのか。そう考えると、本を読まなくなったことで失われた、何か大切なものがあるという「前提」が、こうした判断には含まれていることがわかるでしょう。「本を読まなくなると、どんな悪いことがあるのか」「何が失われるのか」。そこまで考えたうえで、この言い古された指摘を納得して、「なるほど、その通りだ」と思うか。それとも、そこまで考えずに「そんなものだろう」といってすませてしまうか。考えることを身につけようとするのであれば、こうした常識に簡単に飲み込まれては困ります。

「本を読まなくなると失われるものは何か」。この問いを少し展開して、「本を通じて得られるもの」と「本でなければ得られないものは何か」を考えてみましょう。もし本でなければ得られないものが少なければ、本を読まなくなったとって非難されることはなくなるはずです。さあ、あなたなら、どんな答えを思いつきますか。

以下は私の答え。たとえば、本を通じて得られるものは、知識、情報、教養、たのしみ、興奮、感動など。それでは、これらのうち、「本でなければ得られないものは？」と考えると、何が残るのでしょうか。いまや電子メディアの普及で、たいいていの知識や情報は、本でなくても手に入るようになりました。活字メディアよりも数段早く、しかも手軽にさまざまな情報を手に入れることができる時代になったのです。

楽しみや感動、興奮にしても、映像・音響メディアの発達から、本でなくても深い感動や楽しみを得ることはできます。むしろ、こうしたものは、発達した AV 機器によって本よりも迫力をもって伝えられる時代になりました。原作の本を手で活字を目で追っていくよりも、大画面の大音響のもとで映画化された作品を見るほうが、興奮も感動もずっと大きくなる可能性だってあります。

それでは「教養」はどうか。たしかに、テレビを見ても、コンピュータから得た情報によっても、あるいは講演会や大学の⑩こうぎなどを通じて、「知識」を得ることはできます。「教養」をたんに知識としてみれば、なるほど活字メディアでなくてもよさそうです。

それでも本でなければ得られないものは何か。それは、知識の獲得の過程を通じて、じっくり考える機会を得ることにある——つまり、考える力を養うための情報や知識

との格闘の時間を与えてくれるということだと私は思います。

ほかのメディアとは異なり、本をはじめとする紙に書かれた活字メディアでは、受け手のペースに合わせて、メッセージを追っていくことができます。たとえば、今この本を手に行っている皆さんは、めんどくさいやと、一足飛びに別の章を開いたりすることも、斜め読みをして、「もういいや」とこの本を投げ出してしまうこともできます(もう少し辛抱してつきあってください)。あるいは、これまで読んできたところを、もう一度読み返して、この著者がこれから何を言おうとしているのか、予想を立てることもできるでしょう。活字メディアの場合、読み手が自分のペースで、文章を行ったり来たりしながら、「行間を読んだり」、「論の進め方をたどったり」することができるのです。いいかえれば、ほかのメディアに比べて、時間のかけ方が自由であるということです。

文章を行ったり来たりできることは、立ち止まってじっくり考える余裕を与えてくれることでもあります。もっともらしいせりふに出会っても、話しことばのように「そんなものかな」といって十分吟味もしないで納得しない。そのもっともらしさを疑ってかかる余裕が与えられるということです。つまり、ありきたりの「常識」に飲み込まれないための複眼思考を身につけるうえで、こうした活字メディアとの格闘は格好のトレーニングの場となるのです。

出典：苺谷剛彦（著）、『知的複眼思考法』、講談社、1996年、pp.44-46.

(問1) 下線部①にあてはまる漢字を、次の(ア)から(カ)の中から一つ選びなさい。

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| (ア) 校義 | (イ) 校議 | (ウ) 講議 |
| (エ) 講義 | (オ) 公議 | (カ) 公儀 |

(問2) この文章の要点として、筆者が言いたいこととして最も適切なものを、次の(ア)から(オ)の中から一つ選びなさい。

- (ア) 電子メディアは、時間をかけずに有益な情報を安全に入手できるということ。
- (イ) 本を読むことによって、もっともらしさをうのみにしないような思考力を養う機会が与えられるということ。
- (ウ) 本来の教養とは、知識のことではなく本を読むことによってのみ得られるということ。
- (エ) 電子メディアの発達のために、若者たちが本を読まなくなったことが心配であること。
- (オ) 活字メディアは読み手のペースで、メッセージを追うことができるということ。

(問3) この文章の論旨をふまえて、あなたが教師になったとき、子どもたちにどのような読書活動をおこなっていきたいと考えますか。あなたの考えを300字以上400字以内で書きなさい。